

歯科医師臨床研修推進検討会(第4回)

大阪府済生会中津病院歯科口腔外科
瀧田正亮

平成19年10月2日 厚生労働省

中津病院における歯科医師臨床研修の現況

- 平成11年4月1日厚生省歯科医師臨床施設(単独型)に指定される。
- 平成13年度より歯科医師臨床研修を受け入れる。
(指導医2名・研修医1名で開始)
- 平成14年度より研修医定員2名となる。
- 平成17年度より大阪大学歯学部附属病院の協力型施設として1名(8ヶ月間)の研修も担当(平成19年度より指導医3名となる)
- 現在までの研修修了者延べ9名(平成19年度は3名の予定)

*統括委員会(中津病院臨床研修管理運営委員会)のもとで歯科医師臨床研修委員会が運営されている。

研修環境の概要

研修プログラム: 単独型 2名(研修期間1年)
協力型* 1名(研修期間8ヶ月)
指導医数 3名
指導様式 指導医(主治医)との1対1の指導様式であり診療規模に影響を受ける
歯科口腔外科 外来患者数: 平均60名/日(土曜日・午後祭日診療あり)
入院患者数: 10~15名/月
手術件数: 10件/月
(病院規模 大阪市内都心部JR大阪駅に隣接した総合病院
24診療科・778床・各種委員会数62)

*平成18年度より大阪大学歯学部附属病院の協力型施設

管理型施設と協力型施設の連携

- 大阪大学歯学部附属病院歯科医師臨床研修指導歯科医講習会への参加
- 大阪大学歯学部人事課と本院人事課との連携の構築
- 大阪大学歯学部附属病院の臨床研修システムの参考と応用*
- 管理型施設と協力型施設または協力型施設間の連携としての本院の特性の活用(案)**

*協力型参加への目的: 本院における歯科医師臨床研修の多面的な充実化を目的として協力型としても参画している。

**院内各種勉強会への積極的参加等

中津病院における歯科医師臨床研修指導体制

- 3名の指導歯科医に各々研修歯科医が1対1で専属指導を受ける

研修指導担当者 臨床経験 専門医(日本口腔外科学会)

プログラム責任者	歯科口腔外科部長	28年	専門医・指導医
指導歯科医 1	副部長	24年	専門医・指導医
指導歯科医 2	医員	11年	専門医

平成19年9月現在

- 上級医の関与

マンツーマンでの指導方式であるが、指導歯科医ごとに偏りがないようプログラム責任者が随時介入指導を行う。

歯科医師臨床研修内容と評価方法

- 中津病院臨床研修プログラム・必須項目の所定の件数で評価

項目	内容	備考
A	・診査と治療の適応 ・歯科保存, 補綴, 口腔外科外来基本処置 ・指導管理(口腔衛生指導, 歯周疾患管理指導等)	
B	入院症例	主治医と共に担当
C	診断書等 傷病に対する一般的診断書の他 死亡診断書や麻薬処方箋の書き方	
D	歯科保健社会活動(中津養護学校歯科検診) 院内勉強会(日常的各種カンファレンス*と中津医 福祉センター学会), 病診連携勉強会, 専門学会** への参加(発表) ACLS受講(平成19年度から)	*歯科口腔外科, 救急, NST等 **日本口腔外科学 会地方会

A: 到達度に合わせて自験を目標とする。

メンタルヘルスの対応

- 指導医対研修医1対1の指導・研修体系なので、指導医－研修医間のコミュニケーションを密にとり心身の疲労の予防等に十分な観察を心掛ける。
 - ①研修医を孤独にさせない。
 - ②研修意欲の向上・維持と到達度の確認
 - ③問題解決の手法等は、指導医－指導医間および指導医－研修医間で同一視点で共有する。
 - 患者とのトラブルの防止
 - 患者－指導医(主治医)間の人間関係の構築が成立している患者から診療に介入させる。
 - 他の職種とのトラブルの防止
 - 日頃から職種を超えカンファレンスなどへの参加により、他の職種のスタッフの立場を理解できるよう心掛け、万一発生した時には率直に言語コミュニケーションにより関係者のサポート*のもとで解決をはかる。
- *解決には院内の関連委員会の協力も有効
- 「食と精神症状」は密接に関連していることから、食事はゆっくり、よく咀嚼し味わってとるよう日頃から指示している。

研修歯科医の勤務環境

- 社会保険: 職員として完備
- 労働保険: 同上
- 処遇 中津病院人事委員会、給与検討委員会および臨床研修管理運営委員会等による一定の規定に従う(医科臨床研修医同様)。
- その他 学会・研究会への参加費支給あり

指導歯科医の資質向上策

日常的指導項目については指導医個々で年度ごとに担当研修医に合わせた指導目標を立てる*。

- 技術指導
- 对患者、対スタッフのコミュニケーション指導
- 診療録の作成指導

学術指導を通じて指導医(主治医)の資質の向上につなげる*

- 研究会・学会発表
- 論文作成

*卒前教育の格差に対応

**指導医である以前に主治医であるという考えから、主治医としての資質が向上すれば、指導医としても資質は向上すると考える。

歯科医師臨床研修への導入と修了後の対応

- 卒前教育との連携
 - ・採用が内定した時点で、当院で研修を効率よく受けるための到達度・条件リスト等を作成し学部教育担当者にも必要事項を承知して頂く。(案)
 - ・研修希望者には学部5年次の時点*から、頻回に病院見学を行い本院での研修に必要な知識を学生の段階から理解し不足分を補う努力をしよう。(現在実施・受け入れ中)
- 後期研修の受け入れ状況
 - 過去9名の修了者はいずれも、修了期間1年では不足であるとの訴えが強かったため、後期研修の受け入れを平成20年度より検討中(人事課、臨床研修管理運営委員会担当)
- 現在は1年間の歯科医師臨床研修を修了した継続研修の希望者には修練医や病診連携登録医として籍を置き、不定期ながら研修の継続ができる体制にしている。学会活動も同様に研修修了後も継続している修了者もいる。

*病院ボランティア活動の体験を進めている。また病院誌・中津病院年報を提示して、病院規模、診療状況等のデータをとって本院への理解を予め促してもらっている。

結 語

1. 大阪市内都心部総合病院・歯科口腔外科として過去7年間延べ13名の歯科医師臨床研修医を受け入れてきた施設として、歯科医師臨床研修に関わる事項について述べた。
2. 総合病院の機能特性・特色を生かした研修体系・環境であり、修了者の評価も高いが、一方では研修施設によりカリキュラムの内容や到達度に格差が生じる可能性が危惧される。全国的に標準化した歯科医師臨床研修が実施されるよう望まれる。

付記: 中津病院歯科臨床研修医(ファーストオーサー)の学術業績(論文)

- ①松田芳果, 他: 高カルシウム血症・白血球増多症を併発し急速に経過した下顎骨肉腫の1例. 中津年報12巻, 2001
- ②松田芳果, 他: 野郎生活者の医療援助－歯科口腔外科の立場から. 中津年報12巻, 2001
- ③石谷和歌子, 他: 義歯装着患者における味覚・「おいしさ感覚」: 口腔癌患者を対象としたアンケート調査より. 日本味と匂誌9巻, 2002
- ④塚口 雅, 他: 急速に経過し嚥下困難を併発した顎下・オトガイ下蜂窩織炎の1例－統合失調症患者. 中津年報13巻, 2002
- ⑤塚口 雅, 他: 下顎骨病的骨折6例の病態検討－患者のADL(ability of daily life)に着眼して. 中津年報13巻, 2002
- ⑥石谷和歌子, 他: 高カルシウム血症を伴った口腔扁平上皮癌の5例. 中津年報13巻, 2002
- ⑦塚口 雅, 他: 病的下顎骨骨折(進行性口腔癌)における摂食機能－味覚・嗜好性の意義. 日本味と匂誌10巻, 2004
- ⑧塚口 雅, 他: 高齢頬粘膜癌: 終末期患者の治療例－患者から学んだもの. 中津年報14巻, 2003
- ⑨塚口 雅, 他: 中津病院における卒後臨床研修に. 中津年報14巻, 2003
- ⑩松浦 愛, 他: 口腔癌終末期医療における在宅療養選択例. 中津年報14巻, 2003
- ⑪松浦 愛, 他: 研修医レポート 歯科補綴物(固定性力架橋義歯)の脱落例. 中津年報14巻, 2003
- ⑫塚口 雅, 他: プラナーボ効果と癌性疼痛－口腔癌終末期からの検討. 中津年報15巻, 2004
- ⑬寺下真文, 他: 口腔扁平上皮癌・高カルシウム血症随伴例に対するビスホスホネート投与有効例2例. 中津年報15巻, 2004
- ⑭塚口 雅, 他: 中津病院・歯科口腔外科卒後臨床研修－病診連携登録医の立場から. 中津年報15巻, 2004
- ⑮Terashita T: Clinical statistics of Department of Oral Surgery in Saiseikai Nakatsu Hospital - from the Annals of Hospital. 中津年報15巻, 2004
- ⑯塚口 雅, 他: 口腔癌終末期患者における味覚嗜好性と疼痛緩和－臨床検討. 日本味と匂誌12巻, 2005
- ⑰塚口 雅, 他: 癌・終末期における疼痛緩和例(オピオイド非投与または中止例)の検討－口腔癌例を対象として. 中津年報16巻, 2005

⑧矢田 基, 他: UFTおよびTS-1による長期外来コントロールを行っている高齢者腺様嚢胞癌の1例. 中津年報16巻, 2005
⑨川上正訓, 他: 口腔外科臨床研修—口腔癌終末期例. 中津年報16巻, 2005
⑩杉政玄雄, 他: 中津病院における歯科医師臨床研修—研修医の立場から. 中津年報17巻, 2006

研修終了後の論文も含む